PRESS RELEASE

2026 年 11 月 13 日
株式会社 ispace

ispace、ミッション 3 に向けた ULTRA ランダーの基本設計審査（PDR）を完了

エンジン変更を反映したシステム全体の基本設計が確立

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は、2028 年に打ち上げを予定しているミッション 3 で使用する ULTRA ランダーについて、エンジン変更を反映したシステム全体の基本設計審査（Preliminary Design Review、以下 PDR）を完了したことを発表しましたので、お知らせします。



ULTRA ランダーの構造モデル（Structure Model）をエンジニアが確認する様子

ispace は今年 3 月に、世界的に高まる月面開発需要を背景に、顧客のミッションクオリティと開発効率への期待に応えるべく、日米ランダーを統合した新モデル「ULTRA」ランダーの開発に着手し、併せて、エンジン変更についても発表[*1]しました。今回の PDR では、先般、ULTRA ランダーへの搭載を発表した Nammo 社のエンジンへの変更[*2]を踏まえた推進系全体の設計に加え、質量、電力、Delta-V などを含むシステム全体としての設計成立性および設計ベースラインを確認しました。また、エンジン変更に伴う各サブシステムにおける設計への反映と計画についても確認しました。

[*1] 関連リリース：ispace、日米ランダーを統合した新モデル「ULTRA（ウルトラ）」を発表

*2 関連リリース：ispace、Nammo と長期的な推進系サプライチェーンの強化および調達協力に向けた覚書を締結

当社のランダー開発では、「段階的プロジェクト計画法におけるシステムエンジニアリング活動」を採用しています。各開発フェーズで必要な作業プロセスが完了した段階で、その結果について技術審査を行い、次の開発フェーズへの移行可否を判断しています。

PDR の完了は、ULTRA ランダーシステムの基本設計フェーズの完了を示す、重要な開発マイルストーンです。ispace は本審査の完了を受け、2028 年に予定するミッション 3 の打ち上げに向け、ULTRA ランダーの開発を次のフェーズへ移行します。今後は、PDR で確立した基本設計をもとに、詳細設計を行い、詳細設計審査（Critical Design Review：CDR）の完了を目指します。その後、実際にミッション 3 で使用するフライトモデルの製造および各種試験を経て、打ち上げに向けた準備を進めてまいります。

ランダーの開発は複数年にわたり、技術的な設計や検証など、一つひとつのプロセスを着実に積み重ねながら進められます。その一方で、こうした日々の開発の進捗を、分かりやすい形で継続的にお伝えすることには難しさもあります。 ispace では、長期開発における現在地をより分かりやすくお伝えするため、PDR や CDR などの重要な開発マイルストーンを全体のプロセスが順調であることを示す指標とし、その達成を適時お知らせしています。

ispace は、2023 年 10 月に経済産業省が実施する「中小企業イノベーション創出推進事業」における宇宙分野の「月面ランダーの開発・運用実証」テーマに、予算額（補助上限）120 億円の補助対象事業として採択を受け、現在、ミッション 3 を初号機とする ULTRA ランダーの開発を進めています。ULTRA ランダーは、ミッション 2 で運用した RESILIENCE ランダーより大型化された本格的商業化モデルであり、高さ約 3.6m、幅約 3.3m、重量約 1,000kg（Dry: 無燃料時）、ペイロード積載可能容量は約 200kg となる見込みです。

■ **株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史のコメント**

「ミッション 3 に向けた ULTRA ランダーのシステム全体の基本設計審査を完了できたことは、2028 年の打ち上げに向けた重要な一歩となります。エンジン変更を含む設計を確実に進め、次のフェーズへ移行する重要なマイルストーンを迎えることができました。今後も ULTRA ランダー開発を計画通り前進させ、ミッション 3 の成功と、将来の持続的な月への輸送サービスの実現を目指します。」

■ **株式会社 ispace CTO 氏家亮のコメント**

「エンジン変更は推進系だけでなく、質量、電力をはじめランダーのさまざまなシステムに影響する大きな設計変更です。今回、これらの影響をシステム全体で検証し、ULTRA ランダーの基本設計審査を完了できたことは、開発チームにとって大きなマイルストーンです。ここか

ら詳細設計、CDR、フライトモデルの製造・試験へと開発を進めていきます。ミッション3の成功に向け、チーム一丸となって着実に開発を進めてまいります。」

■ **株式会社 ispace（https://ispace-inc.com/jpn/）について**

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 350 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った5チームのうちの1チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスおよびデータサービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、新たに月周回の自社衛星を活用した、通信・測位を中心とするルナ・コネクトサービスの提供も目指す。2023 年には民間企業として世界で初めて月面着陸に挑戦するミッション 1 を実施。2025 年にはミッション 2 を実施し、月周回までの確かな輸送能力や、ランダーの姿勢制御、誘導制御機能を実証することが出来た。最速 2027 年には新ミッション 2.5 として月周回衛星 1 基を月周回軌道へ投入することを予定。2028 年[i]には、経済産業省の SBIR 補助金を活用し、日本拠点が主導で開発を進めるランダーモデル「ULTRA（ウルトラ）」によるミッション 3 の打ち上げを予定しており、続く 2029 年[ii]には南極近傍への高精度着陸を目指すミッション 4 の打ち上げを予定している。

――――――――――――

[i] 当該打上げ時期については 2026 年 11 月時点の予定であり、今後変更する可能性があります。なお、当社が補助対象事業として採択された SBIR（Small Business Innovation Research）制度の公募テーマ「月面ランダーの開発・運用実証」の事業実施期間が原則として 2027 年度とされており、SBIR 制度に基づく補助金の対象となるミッション 3 は、当初 2027 年中の打上げとして経済産業省及び SBIR 事務局と合意しておりましたが、2026 年 11 月時点では当社内の開発計画上、2028 年内の打上げとなることを見込んでおります。本変更については今後、関係省庁及び SBIR 事務局と調整中の段階であり、最終的には経済産業省により正式に計画変更が認可されることとなります。

[ii] 2026 年 11 月時点